

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立新座高等学校)

目指す学校像	みんなの心が共に響きあう学校
--------	----------------

重点目標	人として信頼され、志をもった生徒を育成する 1 確かな学力を身につける学習システムの下、すべての生徒が学ぶ喜びを実感する《学力の向上》 2 一人一人の生徒に徹底的に寄り添い、多様な生徒の進路希望を実現する《自己実現の醸成》 3 地域社会と連携し、チームとしての学校力の向上を果たす 《開かれた学校づくり》
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	入学当初より、生徒の学力差には大きな幅があり、一斉授業形式では生徒の学習意欲及び学力の向上を図ることは難しい。生徒の学びに対する意欲を高め、学力の向上と定着を図るためには、生徒個々のニーズと実態を踏まえながら、授業の一層の工夫・改善と、家庭における学習習慣を定着させていくことが課題である。	○授業の工夫・改善による学習意欲の一層の向上と基礎学力の定着。 ○深い生徒理解による個別の支援が必要な生徒への指導の充実。	①少人数クラス編成、習熟度別授業展開を実施する。 ②協調学習を取り入れた授業を実施する。 ③基礎学力の育成を目指し、学習サポーターによる課外補習を実施する。 ④漢字や数学のコンクールなどの内部試験を実施する。 ①特別支援教育推進委員会を核とした、生徒理解のための研修会や情報交換会を実施する。 ②授業研究プロジェクト委員会を核とした、公開授業研究会を実施する。 ③生徒情報を教員間で共有するため、スクールカウンセラーを活用し、適時適切に対応する。	①少人数クラス編成、習熟度別授業展開の実施状況と成果。 ②学習サポーターの活用状況。 ③コンクール試験の実施状況。 ④学校生活アンケートにおける、授業満足度の割合。 ①特別支援教育推進委員会による研修会等の実施状況。 ②公開授業研究会の実施状況。 ③スクールカウンセラーからの情報を教職員全体で共有するとともに、適切な対応を取ることができたか。		
2	学校生活アンケートによる生徒の学校生活満足度は全校で70%(1年:65%・2年:73%・3年:81%)、保護者の満足度は93%と、両者とも高い。これは、日常からの学習・生活・進路等の各種指導が、生徒・保護者の理解を得ている結果と考えられる。生活指導や進路指導を、一層きめ細やかに実施していくことが課題である。	○集団生活を円滑に行うための規範意識と、基本的生活習慣の確立。 ○多様な進路希望を踏まえた系統的な先の見える進路指導の推進。	①遅刻指導、整容指導、校内外における登下校指導、自転車マナー指導を学校全体で実施する。 ②チャイム着席と挨拶の励行を徹底する。 ③携帯電話等の使用に係るモラル向上の指導を行う。 ④他への思いやりや規範意識を育むために、社会貢献活動や体験活動を着実に実施する。 ①系統的な進路指導を行うための計画書を策定する。 ②学年と進路指導部との連携による、効果的な指導(全体・クラス・個別)を実施する。 ③企業・上級学校訪問、進路講演会・学習会等を実施する。	①各種生活面での指導を、学校全体の共通理解の上で実施できたか。 ②チャイム着席・挨拶等の授業規律の確立状況。 ③社会貢献・体験活動の実施状況。 ④学校生活アンケートにおける、規範意識に関する回答結果。 ①進路指導部と学年の連携のもと、3年間を見通した系統的な進路指導計画を立て、実施できたか。 ②企業・上級学校訪問、進路講演会・学習会等の実施状況。 ③学校生活アンケートにおける、進路に関する回答結果。		
3	学校案内はもとより、日頃の教育活動をホームページで小まめに情報発信している。その他、社会貢献の一環として、ボランティアによる近隣の清掃活動等を行っている。新座市内中学校をはじめ、地域に支えられ、また貢献することにより、一層地域に根差した学校として発展することが必要である。	○地域や関係機関との連携を通じた、開かれた学校づくりの一層の推進。 ○保護者やPTA等との一層の連携協力による学校の教育力の向上。	①地域の関係機関と連携した社会貢献活動等を実施する。 ②「学習サポーター」派遣等による早稲田大学との連携を強化する。 ③市内中学校との協力関係を深め、市内中学校の生徒・保護者に対する進路情報発信を行う。 ④学校内外での説明会等を積極的に実施する。 ⑤学校案内や広報誌(グリーンハーモニー)の発行、ホームページの更新を積極的に行う。 ⑥授業公開を積極的に情報発信していく。 ①学校の一層の活性化に向け、PTAの各専門委員会を核にして、PTA活動を活発に行う。 ②家庭との連携を一層強化するため、様々な機会を捉え、メール等により家庭への情報提供を行う。	①地域の関係機関や早稲田大学等との連携の状況。 ②市内の中学校との連携・協力関係の状況。 ③学校案内や広報誌の発行、ホームページの逐次更新等の状況。 ④授業公開や説明会等の情報を積極的に発信し、実施できたか。 ⑤生徒募集に関する取組状況。 ⑥HPや通知等での情報発信状況。 ①PTAの活動状況。 ②保護者アンケートにおける、学校からの情報伝達に関する設問に関する回答結果。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

